

特色ある取組事例紹介

【施設名】神奈川県立近代美術館

【施設概要】

神奈川県立近代美術館は、1951（昭和26）年11月に鎌倉の鶴岡八幡宮境内に日本で最初の公立近代美術館として開館しました。「セザンヌ・ルノワール展」を第1回展として出発して以来展覧会の数は600回を超えています。屋外の自然を取り入れた坂倉準三設計の鎌倉館は近代建築の傑作としても知られています。また充実してきた所蔵品のために、収蔵庫と所蔵品展示スペースを考えて、1984（昭和59）年、鎌倉館から350メートルほど北鎌倉に寄ったところに鎌倉別館を建てました。

鎌倉の2館を拠点にした半世紀におよぶ活動は、国内外の美術を紹介し、人間相互の理解を深めることを目的とし、歴史的文化遺産の豊かさを見つめなおすものです。

2003（平成15）年10月に開館した葉山館は、広い展示スペースのほか、美術図書室や講堂などの施設を備えています。従来鎌倉館にあった全体を統括する機能を葉山館に移行し、神奈川県立近代美術館は、調査・研究に加えて普及・教育にも貢献する一層充実した美術館活動につとめてゆきます。

展覧会活動は、つねにすぐれた美術を紹介することを前提として、1) 近代の美術を見直し現代に引き継がれる課題を発見する。2) 拡大する美術領域を検証紹介する。3) 新しい時代性を考える。4) 美術と周辺領域との関係を探る。この4つを基本方針としながら、近現代を深く見る眼を養い、そのうえで時代の変化に対応する柔軟性をもつことが必要であると考えています。

作品資料収集については、財政状況が苦しくとも、一定の購入活動は不可欠であるとの認識に基づいて収集を進めたいと考えています。そのうえで、作家自身、収集家、美術愛好家、作家の家族などからの寄贈を、美術館にふさわしい作品であるかどうかを基準にして積極的に受け入れ、1) 日本近現代の絵画、彫刻、写真、工芸、デザイン等、2) 近現代の世界の版画、3) 新たなメディア、映像による作品、4) 日本と関連性を有する外国作家の作品、を原則として、なお一層のコレクションの充実を図っていきたいと思います。さらには、作家の一次資料や、周辺資料、美術図書資料の収集にも、充実したコレクション作りのために力点を置いていくつもりです。

神奈川県立近代美術館ホームページ → <http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/>



鎌倉館



鎌倉別館



葉山館

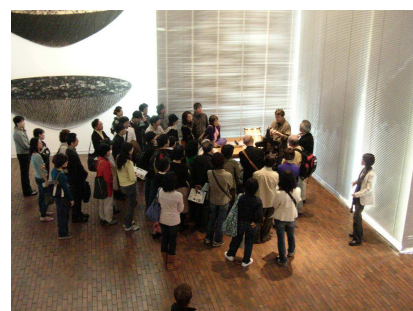
【特色ある取り組み】

神奈川県立近代美術館は、50年の歩みの中でさまざまな活動を展開してきました。なかでも企画性に富んだ展覧会活動は高い評価を獲得してきたといっただいでしょう。しかし、近年欧米と同様に美術館の役割の重要性が再認識されるとともに、活動範囲の拡大が社会的に要請されるようになり、国内でもいわゆる普及事業、参加型の活動が増えてきました。もちろん教育普及といっても、その基本は展覧会活動にあります。それに加えて、美術に関する情報や知識を提供する場（講演、講座、シンポジウム等）を設けたり、拡大拡散する美術領域に対応して新しい形式の催し物（パフォーマンス、ワークショップ等）を行ったり、文学、音楽といった周辺の領域と美術の交差を体験したり（コンサート、朗読会、映像上映等）、子供たちの美術に対する鋭敏な感覚と刺激を交換したり（ワークショップ、ギャラリートーク等）、美術館から外に踏み出して、別な角度からの美術体験を促したりといった人々が積極的に参加できる活動が望まれています。

こうした新たな時代の要求に応えるために、神奈川県立近代美術館はこの分野での独自の活動を志向していこうと考えています。活動の拠点としては、葉山館に新たに整備された講堂、美術図書室、展示室のほか、中庭や美術館の傍らに広がる砂浜など、美術館をとりまくいたるところが考えられるでしょうし、鎌倉館の諸設備もまた、さまざまに活用されて行くと思います。

□展覧会に合わせた活動

神奈川県立近代美術館では、美術や作品をいろいろな面から楽しめるよう、専門家や作家を招いた講演会や座談会、ワークショップなどとともに、展示担当者によるギャラリー・トークや作家本人によるアーティスト・トークなど、子どもから大人までが一緒に楽しめるながらも、一層質の高い教育活動の提供に努めております。



柄澤齋さんによるアーティストトークの様相（2006年11月）

□学校教育機関の支援活動

学校教育機関が授業の一環として美術館を利用することを促進し、授業のプランづくり、生徒の館内での動きなど、よりよい美術館での体験ができるようサポートしております。

また、学校の先生など教育機関に携わる方を対象に、美術館や美術作品を利用した教育の可能性を一緒に考える機会も設けています。

□文化体験プログラム《謎解き宝箱》

平成18年度文部科学省委嘱事業「文化体験プログラム」の一環として、湘南地域文化体験プログラム実行委員会（神奈川県立近代美術館＋逗子市教育委員会＋鎌倉市教育委員会＋葉山町教育委員会＋NPO法人STスポット横浜）が主催し、**みる・きく・はなす・かんがえる・つたえる・いっしょに考える**という「考える力」「言葉の力」を育み、子どもも大人も楽しめる参加型のプログラムを、1年間展開いたしました。



鑑賞プログラム「謎解き宝箱」の様子（2006年8月）

このプログラムで使用した美術館キット「Museum Box 宝箱」には、美術館収蔵品約1万点の中から選んだ代表作品56点のカードと、美術館の裏舞台を描いたオリジナルすごろく「すごろく美術館」などが入っています。ミュージアムショップで販売（税込み2000円）するほか、教育機関には無料で貸し出ししており、実際に授業でも活用されています。



「Museum Box 宝箱」

「文化体験プログラム《謎解き宝箱》」の詳細→ <http://nazotoki.exblog.jp/>

【ここ数年の来館者数の推移】

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
葉山館	60,484人	63,249人	86,893人	63,164人
鎌倉館	15,120人	34,419人	34,396人	39,091人
鎌倉別館	2,928人	11,675人	12,414人	12,026人
合計	78,532人	109,343人	133,703人	11,4281人

【これからの企画展等の紹介】

●神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1 Tel.046-875-2800 (代)

- 会期：6月9日～9月2日 展覧会名：伊東豊雄 建築 | 新しいリアル
- 会期：9月15日～11月4日 展覧会名：イリヤ・カバコフ『世界図鑑』 絵本と原画
- 会期：11月23日～1月14日 展覧会名：プライマリー・フィールド
美術の現在——七つの〈場〉との対話
- 会期：1月26日～3月9日 展覧会名：誌上のユートピア
絵画と美術雑誌の交感——1980—1914
- 会期：3月29日～5月18日 展覧会名：コレクション全館展示 百花繚乱の絵画

●神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下 2-1-53 Tel.0467-22-5000 (代)

- 会期：6月30日～9月2日 展覧会名：生誕100年 鶴岡政男展 人間を愛し、人間を笑う
- 会期：9月15日～10月21日 展覧会名：建築と暮らしの手作りモダン
アントニン&ノエミ・レイモンド展
- 会期：11月3日～12月16日 展覧会名：日本画変革の先導者 玉村方久斗展
- 会期：1月4日～3月23日 展覧会名：中上清展 絵画から湧く光
- 会期：3月29日～5月18日 展覧会名：コレクション全館展示 百花繚乱の絵画

●神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下 2-8-1 Tel.0467-22-7718(代)

会期：6月30日～9月16日 展覧会名：生誕100年 斎藤清・墨画展 木版の作家とともに

会期：9月29日～12月16日 展覧会名：所蔵品に見る戦後の日本画

会期：1月4日～3月16日 展覧会名：木版に抒情を刻む 高橋力雄展

会期：3月29日～5月18日 展覧会名：コレクション全館展示 百花繚乱の絵画